

## 職員による自己評価

## ① 環境面・体制整備

- ・利用児童とスペースの関係は丁度良い。

## ② 業務改善

- ・職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているが、今年度はコロナ禍であることもあり難しかった。

## ③ 適切な支援の提供

- ・支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。
- ・定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。

## ④ 関係機関や保護者との連携

- ・学校との情報共有を適切に行っている。
- ・日頃から子供の状況について情報共有している。

## ⑤ 保護者への説明責任等

- ・保護者会としての活動はしていない。
- ・定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子供や保護者に対して発信している。コロナ禍において、紙媒体ではなくホームページやメールを用いた情報掲示を強化した。

## ⑥ 非常時等の対応

- ・虐待を防止する為、職員の研修機会を確保する等の対応をしている。
- ・非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。
- ・各種マニュアルの再整備を行った。

## 保護者による評価

18名回答

## ① 環境・体制整備

- ・スペースは十分に確保されている。18名
- ・バリアフリーの配慮は1名がどちらとも言えない。1名がいいえ。

## ② 適切な支援の提供

- ・活動プログラム固定化しないよう工夫されているか。はい16名 どちらともいえない2名

## ③ 保護者への説明等

- ・日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解できているか。18名がはい。
- ・定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子供や保護者に対して発信しているか。17名がはい。1名がどちらともいえない。

## ④ 非常時等の対応

- ・定期的な避難訓練は行われている。18名がはい。

## ⑤ 満足度

- ・事業所の支援に満足している。16名がはい。1名がどちらともいえない。1名が無回答。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- ・保護者と職員との信頼関係が築けているが、今年度はコロナ禍でなかなか十分な連絡会や活動ができなかった。
- ・避難訓練の実施をしている。
- ・ホームページを用いた情報開示を行っている。

## 【相違点】

- ・バリアフリー化への配慮に関しては、今年度より分室を開設し、医療的ケアが必要な児童や車いすの児童が安全に過ごせるスペースを確保することができた。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- ・ホームページ等で活動の様子を発信している。
- ・家族との信頼関係が出来ている。
- ・学校との情報共有が出来ている。

### 事業所の改善点

- ・コロナ禍における、保護者や地域との更なる情報共有や研修、交流する機会の充実化。

### 事業所の改善への取り組み

- ・ホームページや、スマートフォンを用いての安心安全な情報伝達方法の促進。
- ・コロナ禍における、研修や連絡会などの実施方法の検討やそれらに代わる物の実施。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

毎回このアンケートで襟を正す機会を頂いています。

頂いたご意見を真摯に受けてめて、より良い事業所を目指していきたいと思えます。

お忙しい中、ご協力を頂き有難うございました。

事業所名 こどもの家 ムー

担当者 草間 利恵子